

### 第33回宮崎県子ども・子育て支援会議発言要旨

1 開催日時 令和6年2月14日（水） 午後2時～午後3時30分

2 開催場所 県庁防災庁舎7階74・75号室

3 出席者 いずもとせいいち おがわみ ゆき かじき 伊豆元精一、小川美由紀、加治木のぞみ、くらながしんいち さ さ き じしゅう さ ほ た だ の り じゅうくろぎ 倉永慎一、佐々木慈舟、佐保忠智、重黒木  
みちえ ながとも なりた か はまべなおこ ふくながあけみ みのべはじめ むくぎょうこ わたなべひさみ  
康恵、長友みほ、成田あす香、浜辺直子、福永朱美、蓑部 初、椋木香子、渡邊寿美  
(以上五十音順。敬称略。)

#### 4 議事等の概要

- (1) 幼保連携型認定こども園の認可について
- (2) みやざき子ども・子育て応援プランについて
- (3) 令和6年度少子化対策に係る予算等について

#### 【主なやりとり】

- (1) 幼保連携型認定こども園の認可について

資料2及び参考資料1～3に基づき事務局から説明があり、内容について質疑応答等が行われた。

(委員) 都城市にある園で非常に勉強もしており見倣うべき園だと思う。中山間地域に位置し、一時は園児数も減少傾向にあったが、保育の質を高める取組などが高く評価され、今では多くの園児を受け入れるとともに、地域にも受け入れられるなど、温かい保育教育を行っている。基準を満たすということであれば認可し、中山間地域のモデルにすべき。

(委員) 事務局において、認可申請書などをもとに基準を満たすか書面審査し、実地検査などにおいても、申請書記載のとおり、内容を満たすなど確認をしているということでしょうか。

(事務局) はい。

(委員) それであれば、地域の期待もあるし、支援会議としては認可する方向での意見として、良いと思われる。

- (2) みやざき子ども・子育て応援プランについて

資料3に基づき事務局から説明があり、内容について意見等が出された。

(委員) 確認だが、現行の子ども・子育て応援プランは令和2年度から令和6年度までの計画であり、そのプランは、子ども・子育て支援事業支援計画、次世代育成支援地域行動計画、自立

促進計画、子ども・若者計画、新放課後子ども総合プランに基づく計画を一体的に策定するものであり、新たに子どもの貧困対策推進計画が入っているという理解であっているか。

(事務局) はい。委員のおっしゃるとおり、5本の計画を一体的に策定している現在のプランに、貧困計画が新たに加わるものであり、その作業は来年度予定しているところ。

(委員) こども家庭庁から出されるガイドラインは3月に発出されるとのことだが、案などは出ていないのか。

(事務局) まだ示されていない状況。

(委員) 3月に出た後作業などとなるとかなりタイトだと考えるが。

(事務局) おっしゃるとおりスケジュール的にはタイトになるが、第2期みやぎ子ども・子育て応援プランを大きく変えるということではなく、現行プランも生かしつつ、新たに貧困の部分が加わるということで理解いただければと考えているところ。

(委員) スケジュールの中に意識調査の実施とあるが従来の項目にガイドラインなどで示された内容を加えた形で実施されるのか。

(事務局) お見込みのとおり。過去との比較など継続的に実施すべきものは実施し、追加項目などはガイドライン等を見て判断することになる。

### (3) 令和6年度少子化対策に係る予算等について

資料4に基づき事務局から説明があり、内容について意見等が出された。

(委員) 結婚関係の事業については、結婚をする、しないなどの個人の自由もあるため、そのあたりを考慮した展開をお願いしたい。

(事務局) 御指摘のとおり。国の戦略方針などにおいても、その点は触れられており、全ての施策において大前提。しかしながら、以前実施した県民向け意識調査では、未婚者の約8割がいずれ結婚したいという意向も持っており、結婚しない理由にも相手に巡り会わないという回答が約4割あるなど、前提となる個人の自由は配慮しながらも、宮崎で生まれてよかった、子育てしてよかった、そして宮崎で結婚してよかったと思えるような希望を叶える施策を展開して参りたい。

(委員) 県民向け意識調査の中で過去からの比較をしているが、上がっている項目、下がっている項目など見逃せないポイントなどもあると思われるため、どのように変化するかなども参考に今後の協議を。

(委員) 結婚支援も大事なポイントだと思われるが、子育て世帯が子どもを育てたいという環境づくりも大切だと思われる。施策にも含まれているが男性の育児休業を促進するなど、子育てをしている保護者が子育てすることに楽しみを感じ、それが次の世代に伝わっていくこと、そのような長期的な視点も大切だと思われる。

(委員) 子どもの意見を聞くことが出てきているが是非取り上げてほしいし、そのためには人権も尊重されなければならない。また、配置基準について、財政的な差があるため一概には言えないが、東京都や宇都宮市ではより厳格な配置基準としていると聞いているところ。宮崎においても、まずは1歳の5対1を実現し、それから段階的に各年齢層に応じた適切な保育が提供できるよう皆で支援することで、乳幼児期から子どもを温かく見守れる環境が構築されると思われる。

以 上